

学外研究支援（海外・国内）に係る成果報告書

2024年 5月 8日

北九州市立大学 学長 様

所属・職名 外国語学部 英米学科准教授

氏 名 雪丸 尚美

年度に実施した学外研究支援（海外・国内）について、下記のとおり成果を報告します。

[実施期間] 2023年 3月 27日～ 2024年 3月 31日（369日間）
（2024年3月27日～3月31日 休暇5日間を含む）

[出張先] Swinburne University of Technology（オーストラリア、メルボルン）

[テーマ] 多様なニーズを持つ学習者に対する言語教育の実践

[当初の目標及び成果の要旨]

1. 当初の目標

本研修の当初の目的は、オーストラリア・ビクトリア州で多様な学習者に対する言語教育の実践を観察・分析し、日本における英語教育の在り方を検討することであった。1年間の研修において、以下の2点を行う予定としていた。(1) 現地の小学校やセカンダリー・カレッジ(日本の中学校と高等学校に相当)の英語を母語としない学習者のための教室や高等教育機関などで実際の指導を見学し、校長や担当教員へのヒアリングを行う。(2) ビクトリア州教育訓練省の担当者や教員養成に携わる大学教員に対し、発達障害を持つ学習者やその他マイノリティとされる学習者を含む多様な学習者に対する言語教育についてヒアリングを行う。また、本研修で得られた成果は、順次、国内外での学会及び論文において発表することとしていた。

2. 成果の報告

(1) 現地の学校への見学と教員へのヒアリング

現地の学校への見学は、慢性的な教員不足のために見学受け入れを断られることがあったが、Caulfield Primary Kindergarten および Bentleigh West Primary School を見学することができた。Caulfield Primary Kindergarten は英日バイリンガルの幼稚園で、Glen Education という NPO が運営している。多様な人種・民族、言語文化的背景、また障害のある3歳から5歳の子どもが通っており、教員は毎年必ずインクルーシブ教育や障害に関する研修(対面・オンライン)を受けることとなっている。また、当該 NPO にはインクルーシブ教育担当があり、運営している幼稚園を巡回して、教員から相談を受けたりディスプレイや教材に関する助言を行ったりしている。読み聞かせの絵本やディスプレイも、言語だけでなく文化の多様性を意識したものが選ばれており、幼児期から多様性と包摂を当然ものとして受け入れる環境が整っていた。

Bentleigh West Primary School は、オーストラリアディスレクシア協会により Dyslexia friendly school として認定されている公立小学校である。読み書きに困難を抱える児童を積極的に受け入れており、すべての教員が読み書きの向上に有効と言われている多感覚指導の研修を受けている。授業見学ではプレップ(0年生)から6年生までの通常学級での英語の授業の様子のほか、英語の読み書きにつまずいている学習者が集中的に学習するための少人数授業を見学した。少人数授業は、専門教員が最大4人の学習者を指導しており、日本の英語教育でも可能な音韻認識や読み書きの指導方法や教材、また効果的な掲示の方法などを実際に見ることができた。

現地教員へのヒアリングは、上述の Caulfield Primary Kindergarten を含む幼稚園、小学校、中等学校の教員を対象として行った。内訳は幼稚園教諭3名、小学校教諭3名、中等学校教諭1名の計7名である。ヒアリングで焦点を当てたのは、特に教室における多様性と包摂の実践とそのための教員研修、また英語を第一言語または第二言語とする学習者で、特に学習につまずいている学習者に対する指導の3点である。インタビューの結果は分析中であるが、2024年6月開催の国際学会で報告する予定である。また、ビクトリア州の民間クリニックで言語発達の支援をしている日本人言語聴覚士と、オーストラリアでの言語発達支援の枠組、具体的な支援方法や教材、日本における英語の学習支援について意見交換を行った。

(2)ビクトリア州教育訓練省の担当者や教員養成に携わる大学教員に対するヒアリング

大学教員二名と意見交換を行った。研修の受け入れ先であるスウィンバン工科大学の教育学部長とは、ビクトリア州の慢性的な教員不足の対応策として正規の教員養成課程(学士課程や大学院の課程)を経ずとも教員になることができる政策をとっていることによる弊害や、多様性と包摂についての課題点について意見交換を行った。また、ラ・トロブ大学の法学部の教員と、法学部教育における多様性と包摂について複数回意見交換を行った。これらの意見交換で得た情報をもとに、ビクトリア州における多様な学習者に対する言語教育政策やその実践について文献調査を進め、論文としてまとめた。

上記2点以外には、大学における多様性と包摂の理解向上のためのプログラム構築についてオーストラリア国内で学会発表を行ったほか、オーストラリアにおける障害を持つ学習者に対する言語教育に関する論文を執筆し、英語教育分野の学術雑誌において英語ディスレクシアに関する連載記事を執筆した。

■以下該当ある場合は記入して下さい。

[成果の公表]

- ・ (論文) Creaser, F. and Yukimaru, N. Nothing About Us Without Us: Creating a Barrier-free and Inclusive Teaching Environment for Students, Faculty, and Staff With Diverse Abilities. Burke, A., Young, D., and Cook, M. L. (2024). *Barrier-Free Instruction in Japan: Recommendations for Teachers at All Levels of Schooling*. Candlin & Mynard ePublishing Hong Kong. (pp. 151-164).
- ・ (論文) 雪丸尚美 「オーストラリア・ビクトリア州における学習困難をもつ英語学習者への支援」『伊藤健一先生退官記念論集』(印刷中)(査読あり)
- ・ (雑誌記事) 雪丸尚美 「読み書きのつまずきを理解するために知っておきたい 英語のディスレクシア」.『英語教育』. 2023年10月号~2024年3月号(全6回). 大修館.
- ・ (学会発表) Naomi Yukimaru, Fiona Creaser “Unity in Diversity: Inspiring Future Generations: Teaching students about gender and diversity through the medium of Japanese and English.” The 12th biennial conference of the International Gender and Language Association (IGALA12). 2023年7月6日. The University of Queensland

[参加した学会・研究会・講演会]

- ・ 2023年7月4~6日、The 12th biennial conference of the International Gender and Language Association (IGALA12)、The University of Queensland (対面、口頭発表)
- ・ 2023年6月24日(土)英語教育ユニバーサルデザイン研究学会2023年度第2回研究会「聞こえづらい学習者への英語指導—その理論、実際、意義—」(参加、オンライン)
- ・ 2023年11月12日(日)英語教育ユニバーサルデザイン研究学会2023年度第2回研究会「日本語母語話者の英語ディスレクシア」(参加、オンライン)
- ・ 2024年2月4日(日)英語教育ユニバーサルデザイン研究学会2023年度第3回研究会「UDLに基づく自閉症児童・生徒への英語教育」(参加、オンライン)